



たかしま takashima

広報たかしま 2006.8.1発行

Takashima 2006 August No.24



爽涼な風に、ラベンダーが香る
野菜の収穫体験や 花の摘み取り体験に
子どもたちの笑顔がきらり!

【「たいさんじ風花の丘」オープンイベントにて】

CONTENTS 目次

独立採算すべき事業のサービス・負担水準を再構築します	2~6
タウンピックアップ	7~10
市長日記・シリーズ環の郷	11
教育委員会Information	12・13
子どもの生命と安全を守るために	14・15
健康生活してますか?	16・17
まちネタ写真館	18・19
そうだ、図書館に行こう!	20・21
みんなのページ	22・23
情報お知らせ版	24~27
文化情報	28・29
病院・警察	30
市長への手紙	31・32
窓口・納税	32・33
行事カレンダー	34・35



Home Page Address
<http://www.city.takashima.shiga.jp>
Mail Address
t-info@city.takashima.shiga.jp

発行・編集 高島市役所企画部秘書広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町1-6番555番地 ☎074925-8130
高島市ホームページ <http://www.city.takashima.shiga.jp>
高島市メールボックス t-info@city.takashima.shiga.jp

8月号
平成18年

高島市 歴史散歩 No.20

踊り歌の成立と高島音頭

盆や地藏盆のころに各地で踊られる盆踊りは、全国各地に郷土色豊かな踊りと踊り歌が伝えられています。高島市には、一般的に「高島音頭」と総称される踊り歌の伝承が知られていますが、この「高島音頭」にも、歌の文句や節回し、また踊り方などに、それぞれの地域の特徴があり、呼び名も地域の名称を冠したもので、朽木地域に伝わる「ヤッサ踊り」などのようにさまざまなのがあったと思われれます。ただ、音頭の調子や節回しなどから考えると、市内各地に伝わる踊り歌は、多くが同一系統のものと考えることが出来ます。

一般的に盆踊りは、お盆のときに各家々に帰ってくるといういわれ、祖霊の歓待と鎮魂のために始められ、室町時代のころには一般の人々の間に広まるようになったといわれています。当初は祖霊をなくさめるものとして念仏の色彩が強いものでしたが、家に迎えた祖霊に喜んで帰ってもらいたいといった意味あいから、踊り歌は次第に軽快でリズムカルなものになり、さらに歌の文句にはお国自慢を取り入れられるなど、盆踊りの行事そのものが地域社会のイベントとして多くの人に親しまれるようになっていきました。



2005 近江ふるさと夏祭りでの高島音頭

現在、市内ではいくつもの団体や集落で「高島音頭」が伝承され続けていますが、地域によっては、伝承者や踊り手の減少といった課題も発生しています。しかし、一方では市内各地に残る「高島音頭」を、それぞれの特徴を生かしながら、後世へ伝えていこうという活動も進みつつあります。

(文化財課)



「おいそうですね。とっていいですか?」「まだ早いぞ。」「いえ、写真…」
(今津町清水にて)

編集後記

▼稲の穂が張り、高島産まれの野菜が店先に並び八月は、心が活気づきます。市内の畑では、今にもはじけそうなスイカが、麦わらの上に「すしっ」と横たわっています。いよいよ本番です。▼今月の表紙は、7月15日に行われた「たいさんじ風花の丘」オープンイベントの様子を紹介しています。ラベンダーの鮮やかな紫色と、すがすがしい香り、そして、子どもたちの笑顔が、この日の暑さを一時忘れさせてくれました。会場では泰山寺八百屋さんがオープン。このお店には品切れなっておりません。見渡す限りの畑には、野菜たちが今か今かと出番を待ちわびています。近くの畑から次々とやってくる野菜たち。輸送にほとんどエネルギーを使わないから、環境にもやさしい。遠くから運んでくるもの、そのために多くのエネルギーが消費され、農作物を育てる環境にも悪影響を及ぼします。本心に安心安全な農産物は、生産地から食卓までの距離も大切なことに気づきます。そう考えると、高島の農産物を食べることは、体にも良く、地球環境にもやさしく、子どもたちの未来にもつながります。20年後のトマトの味が、今日と変わらないためにも…

(広報担当 石川)

